

幼保小連携スタートプログラム

～「幼保小連携推進モデル開発プロジェクト」について～

*「幼保小」とは「幼稚園・保育園・小学校」のことであり、たんぼぼこども園には幼稚園・保育所双方の機能があります。

真室川町では、町内の幼保小*が連携し、9年間の義務教育を見据えた教育の実施のため、教職員間で相互の保育・授業参観や、園児・児童間で相互の行事への参加、小学校生活科授業への園児の参加などを実施しています。

また、保護者同士の連携として、小学校での保護者研修会にこども園の保護者が参加するなど、児童・保護者・教職員が一体となり連携の強化を図っています。

さらに幼保では、新1年生が小学校に入学した際、幼保と小学校でのギャップに悩まされないよう、年長組が小学校の授業単位である45分間活動を取り込むなど、徐々に小学校での生活になじむことができるよう工夫しています。

以上のプログラムを実施したことで、現在の町内では新1年生が小学校の生活や学習にスムーズに適応できており、担当が児童にゆとりを持って対応できています。また、児童・担任間の良好な関係の形成もできていることが成果としてみられます。

教育委員会では、平成25年度に更にその連携を強化し、スタートプログラムの高みを目指して、向上と充実のためのモデル事業として、山形県と連携し、真室川小とたんぼぼこども園において「幼保小連携推進モデル開発プロジェクト」を実施します。

「新1年生が持つ適応力」を高め、こども園と小学校の間で「接続期の保育・教育」についての共通理解を深めることを目的としています。



たんぼぼこども園にて(小学生発表)



真室川小学校にて(楽器屋さん)

主な取り組み

以下…園(こども園) / 小(真室川小)

①「子ども理解」を生かした「スタートプログラム」の充実

- 園：小学校の「スタートプログラム」を意識した週時程の工夫
- 小：子ども園での育ちを考慮した「スタートプログラム」の工夫

②幼児期の「遊び」を小学校の「学び」につなぐカリキュラムの工夫

- 園：「遊び」の中で「自主性・思いやり・好奇心」を育む
- 小：生活科を核とした合科・関連的な指導の展開

③接続期の連携の在り方を考える

- 園：「遊び」の中から見てまねる「学力」を高める取り組み
- 小：教師のかかわりで子どもの行動の背景にある内面をとらえる取り組み
- 園・小・家：同じ目線で子どもを見つめ育てていく取り組み



差首鍋地区生涯学習センターがオープン!!

～愛称は「まざれや」に決定!～



明治7年に創立され、平成23年3月末をもって138年の歴史に幕を閉じた差首鍋小学校。地域の方々からも惜しまれつつ閉校しましたが、近くにスポーツや集会ができる施設が欲しいという地域から要望に答え、このたび「差首鍋地区生涯学習センター」として生まれ変わりました。5月1日(水)には多くの来賓や地域の方々、真室川あさひ小学校の子どもたちが駆けつけた中オープニングセレモニーが行われ、たくさんの方がふれあうようにと願い応募した高橋好花さん(真室川あさひ小3年)の「まざれや」という愛称がみなさんの前で披露されました。テープカット後は、待ちこがれていたようにみなさんが館内に入り、昔話の挿絵展示や16ミリ映画上映会、餃子の皮を使った簡単なながらも本格的な釜焼きピザ作りの体験も行われ、多くの子ども達と地域の方々の声が1年ぶりに響き渡っていました。和室で行われた井戸端会へお茶飲みが集まった地域の方々も、「集まる場所ができて良かった。今後も活用していきたい。」と話していました。

体育館や展示スペース、学習設備が整った生涯学習施設は当町では初めてです。今後は様々な体験や学習を通して、「町民1学習、1スポーツ、1ボランティア」を推進していきます。また、いつでも気軽に利用できますので、ぜひ皆さんも活用してみませんか。

- 開館時間
8時30分～17時まで
- 休館日
月曜・木曜
- 電話
63-2393



男女共同参画週間 6月23日(日)～6月29日(土) 「紅一点じゃ、足りない」
この期間に男女共同参画について改めて考えてみましょう。